

TASC-GIFU REPORT 2024



岐阜県障がい者芸術文化支援センター
令和6年度 事業報告書

maki

(公財) 岐阜県教育文化財団内に存する岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASC ぎふ〕は、ぎふ清流文化プラザを拠点に、絵画・造形等の美術分野や音楽・演劇などの舞台芸術分野で、表現活動と社会参加に取り組む障がいのある人を支援する事業を展開しており、設立7年目を迎えています。

令和6年度の岐阜県は、『清流文化』の創造を目的とする「文化イヤー」として、夏には「清流の国ぎふ総文2024」を、秋には「清流の国ぎふ」文化祭2024（第39回国民文化祭と第24回全国障害者芸術・文化祭）を開催し、県民総参加による文化活動の発表・共演・交流が盛大に行われました。

TASC ぎふとしても、2つの大きな文化の祭典の一翼を担うべく、障がいの有無や世代を超えた人々とまじわりながら多様で多彩な文化芸術事業を実施し、国内外から参加参集された多くの方々に感動とメッセージを届けることができました。「まじわる新聞・まじわるラジオ」、県民参加型舞台「マカニーとエルド」「赤いアスターと時空の旅」、いろんなみんなのステージイベント「不思議

な再会」「ゆめぼっけ・スペシャルコンサート」等、文化祭を目指して数年前から準備を進めてきた特別な事業に加え、これまでも継続的に開催している「いろんなみんなの展覧会」、県内各地における様々な展覧会やステージ発表、オープンアトリエ、ワークショップ、アート作品の二次利用支援事業等、例年を上回るスケールで障がいのある人を支える方々とともに協力して実施いたしました。これらの事業に多大なるご協力をいただきました皆さまには、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

これからも TASC ぎふでは、多様な人々がそれぞれの地域で自分らしく生きることのできる共生社会の実現・共創の場の創出を目指し、『アートで、まじわる。』をコンセプトとする芸術文化活動を推進いたしますので、ご理解ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 岐阜県教育文化財団
理事長 高木敏彦



「不思議な再会」



「ゆめぼっけ・スペシャルコンサート」



「マカニーとエルド」



「赤いアスターと時空の旅」

アートで、まじわる。

社会とのまじわる場をつくり、育て、障がいのある人の表現と社会参加の可能性を広げることを目指して活動しています。

障がいのある人が、何らかの役割や一つの特性に限定されるのではなく、“支える”と“支えられる”の立場が自然に入れ替わることができる、ゆらぎのある関係性や開かれた社会について、皆さんと一緒に考えていければ幸いです。

令和6年度のテーマ

- ・「清流の国ぎふ」文化祭2024を通して、アクセシビリティ（情報保障、アクセス）に考慮した鑑賞や参加の機会を設け、魅力や多様な価値観を伝え合う。
- ・各地域で活動する支援者の自立的、継続的な取組みにつなげるためのサポートを行う。



相談

障がい者の芸術文化活動に関する相談窓口（直接来所、電話、メール、FAX）を設置し、ご本人やご家族、支援者からの各種相談に対応しています。また、専門アドバイザーとの協力体制を整えるとともに、全国にある支援センターとも連携し、様々な課題の解決に取り組んでいます。

50件
相談件数
令和6年度
(3/6 現在)

相談依頼者		相談内容	
福祉関係者	9 件	権利保護（二次利用、商品化等）	7 件
当事者	11 件	発表（発表したい、展覧会の開催等）	7 件
教育機関	7 件	交流・連携（ネットワークづくり等）	8 件
文化団体	4 件	情報発信（取材、広報、見学等）	2 件
家族	1 件	調査研究・保存（作品保護等）	1 件
自治体	0 件	創作（創作環境、支援方法等）	6 件
医療機関	0 件	人材育成（研修会、講師について等）	3 件
市民団体	7 件	その他	16 件
その他	11 件		

音楽ワークショップ



重度障がい者を含む参加者（5組）に合わせ、ハンドパンなどの楽器演奏やセッションなど、音楽を楽しむための演奏やふれあう機会を設けました。会場参加のみならず、オンライン参加として近隣の特別支援学校や福祉施設からも申し込みがありました。（記：平野）

音楽ワークショップ「音浴の会 ハンドパンの音色を楽しもう」

会 期：2024 年 9 月 11 日(水)

会 場：ぎふ清流文化プラザ4F 練習室3

講 師：山下恭寛さん、林紕さ子さん

参加者：約 30 名（オンライン含む）

オープンアトリエ



会場には画材などを用意し、誰もが自由に参加できる創作の場として開催しました。

2024 年 5 月 6 日(月・祝)～2025 年 3 月 5 日(水) 9 回

会場参加：のべ 79 名 / オンライン：のべ 3 名

協 力：tomoni アートサポーター のべ 7 名

オープンアトリエ講師



豊富春菜さん
美術作家

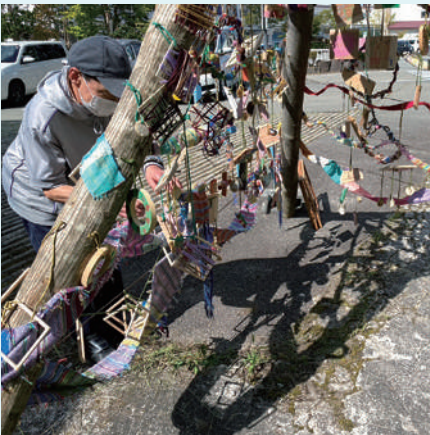


鷺見綱一さん
画家



南谷富貴さん
美術作家

ワークショップ
「つらっていこう! 仲間して」



山ゆり園（高山、益田、吉城）

※「いろんなみんなの展覧会」関連企画

会 期：2024 年 9 月 13 日(金)

講 師：トザキケイコさん

出張オープンアトリエ



岐阜県立みどり荘

会 期：2024 年 12 月 19 日(木)

講 師：豊富春菜さん

「出張オープンアトリエ + α」では各事業所がオープンアトリエを自立的、継続的に行うために、研修会方式で行いました。

恵那特別支援学校職員対象研修



実践：創作技法や画材について



実践：作品の面白さを知る対話型鑑賞会

「全国障害者芸術・文化祭」において、児童・生徒の作品展の開催を目指す教職員向けに、創作活動で大切な心構えや創作技法、作品の展示方法、作品の見方（鑑賞会）について学んでいただきました。

① 全体研修(オンライン)「サポートを考えるー創作の環境づくりと心構えー」

会 期：2024年5月27日(月) 16:00～17:00

講 師：岡崎潤さん(アービカル☆代表)

参加者：約80名

② グループ研修(実践)

会 期：2024年6月27日(木) 16:00～17:00

会 場：恵那特別支援学校(恵那市)

講 師：豊富春菜さん(美術作家)／創作技法や画材について

安田香実さん(言語聴覚士・tomoni アートサポーター)／作品の面白さを知る対話型鑑賞会

TASC ぎふ／作品の展示方法について

参加者：約80名

「アコーディオンのように、人に合わせた環境を作る仕事術」



「事に人を合わせる」ではなく、「人に合わせた事づくり」とは? 「正しい」「間違っている」の指示・判断をするのではなく「選択」のコミュニケーションから生まれる居心地の良い場づくりをする術をパネルディスカッションで考えました。

※「渾沌の中の調和Ⅳ」関連企画

会 期：2024年11月21日(木) 14:00～16:00

会 場：せきてらす(関市)

講 師：小林明弘さん(一般社団法人暮らしランプ 業務執行理事)

水野友有さん(中部学院大学 准教授)

大野雅孝さん(NuNo-SEKI 代表)

参加者：23名

tomoni アートサポーター企画

わいわい
YY☆?!♡鑑賞会



tomoni アートサポーターが自ら企画し、ナビゲーターを務めた対話型の鑑賞会。参加者は言葉や身体表現で感想を伝え合い、作品の多様な見方を共有しました。

※「いろんなみんなの展覧会」関連企画

会 期：2024年10月13日(日)、14日(月・祝)

会 場：ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール(岐阜市)

ナビゲーター：安田香実さん、土井さおりさん、園部洋美さん

参加者：各4名

茜部小学校 カラフルタイム



人権教育として、桑原さんの講話やピアノ演奏に児童が耳を傾けたり、一緒に歌を歌ったりしました。「私も自分の得意なことを見つけて、桑原さんのように頑張りたい。」という感想をいただきました。

会 期：2024年6月26日(水)

会 場：岐阜市立茜部小学校 体育館(岐阜市)

講 師：桑原良恵さん(ピアニスト)

安田香実さん(tomoni アートサポーター)

参加者：780名

tomoni アートサポーター企画

みんなで奏でるファッションショー



tomoni アートサポーターが昨年に続き、ファッションショーを企画しました。公募で集まったモデルと演奏者の共演により、さらに盛り上がりを見せていました。

※「いろんなみんなの展覧会」関連企画

会 期：2024年10月12日(土)

会 場：ぎふ清流文化プラザ エントランスホール(岐阜市)

参加者：モデル・演奏者 10組

県外施設を見学しよう



京都府にある(一社)暮らしランプが運営する就労継続支援B型事業所(なかの邸、こきゅう+)と、生活介護事業所(sparkle)を見学しました。

会 期：2025年2月21日(金)

会 場：なかの邸(京都府長岡京市)

NAKANOTEI COFFEE 天王山店(京都府乙訓郡)

参加者：15名

いろいろなみんなの展覧会 「大地に、つどう。」



企画展「つどう あらわれ」

会 期：2024年10月11日(金)～15日(火) 10:00～17:00

会 場：ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホール等

出 展：中橋裕子さん、曾良貞義さん、クリヨシさん、有賀宣美さん
原田正則さん、金丸慎さん、ひしだみわさん、佐藤守道さん
都築一雄さん、西尾正宏さん、棚橋宏太さん、山田真己さん
田口翔大さん、堀和暉さん、戸田翼さん、山崎洋子さん
山本豊和さん、そらまめさん、桑原拓也さん、山本翼さん
服部高典さん、近江真司さん、渡辺怜真さん、月音さん
クラフトマンいっきさん、篠田慎さん（順不同）

「清流の国ぎふ」文化祭2024の主要事業として、またこれまでの集大成として、表し方も、感じ方も、過ごし方も違う、いろいろなみんなが集う参加型のアートフェスティバル内で、様々な企画を以下の目標に沿って行いました。

- (A) 県内で活動している作家の変化などを作品や動画を通して、多くの人に紹介する
- (B) 多様な方々が、気軽に参加したり、感じたり、様々な感覚を味わう場とする
- (C) 各地域等へ、新たな文化創造活動を“広げる”ことにつなげていく

過去に紹介した作家を覚えていて、その作品の変化に気づき、新たな魅力を感じたり、作家の実演に感心したり、直接交流できたことに喜ぶ来場者の姿が印象的で、作品や作家の魅力を伝えることができました。

また、作品に触れたり、匂いを嗅いだりするような視覚以外で感じる手法や屋外での光・風・水の音などを感じながら集うことができる場を提案し、「障がいのあるなし」という段階から次のステップに向かう一歩となりました。（記：二村）



YY☆?!♡鑑賞会



アートマルシェ



MOVIE
展覧会

企画展「つどう あらわれ」
庭園企画「つどう いどころ」
はがきサイズの公募展
アートマルシェ
わいわい
YY☆?!♡鑑賞会 等



庭園企画「つどう いどころ」



監視員や受付スタッフ（大学生、tomonii アートサポーター）が、事前に各施設等を訪れ、施設の説明や制作の様子を見学しました。

まじわる新聞・まじわるラジオ

「こたえが、すぐに出なくてもいい。こたえがなくてもいい。ただ、まじわる。」ことをコンセプトに、「こたえのない学校」と題した事業を実施。県内の高校生が障がい者と自分たちの好きなことや興味のあることを通して交流しました。その体験や感じた想いを新聞とラジオを通じて広く発信しました。（記：武藤）



まじわるラジオ

収録会場：ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホール ホワイエ

①長良高校演劇部

収 録 日：2024年10月13日(日) 10:30～10:50

②岐阜高校美術部と岐阜盲学校高等部

収 録 日：2024年10月14日(月・祝) 10:30～10:50



MOVIE
「まじわる」



まじわるラジオ①
音声のみ



まじわるラジオ②
音声のみ



いろいろなみんなのステージイベント

不思議な再会

会 期：2024年10月24日(木)
1部 14:00～15:10 2部 19:00～20:10
会 場：ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホール
出 演：岐阜ろう劇団いぶぎ、岐阜県立長良高等学校演劇部
音 楽：古田大地さん
演 出：野崎美子さん
来場者：1部 435名 / 2部 304名

手話劇「不思議な再会」は、離ればなれになった4人の座敷童が、様々な出会いや別れ、そして再会を経験する物語です。手話劇は、台詞をそのまま手話に翻訳するのではなく、台詞の意味からイメージを膨らませ、全身を使って表現する演劇手法であり、登場人物の心情や、ストーリーの盛り上がりなどが見事に表現されていました。また、岐阜ろう劇団いぶぎと長良高等学校演劇部は2年間にわたる共演・交流を行い、多様な価値観を共有し、互いに掛け替えない経験をすることができました。(記：山田)



いろいろなみんなのステージイベント

ゆめぼっけ・スペシャルコンサート

会 期：2024年11月10日(日)
15:30～17:40
会 場：ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホール
出 演：ゆめぼっけ、石塚まみさん、石川智さん、
花田孝文さん、中井貴恵さん
音楽劇演出：菅田華絵さん
司会進行：浅井彰子さん
来場者：346名

音楽ユニット「ゆめぼっけ」を中心に、絵本の朗読や音楽劇を含む盛りだくさんの音楽コンサートを開催しました。ゆめぼっけのメンバーがピアノ・ボーカルの石塚まみさんや俳優の中井貴恵さんら一流の表現者と共演しながら、音楽劇など初めての取り組みにも果敢に挑戦。コンサートの最後には、ゆめぼっけがこれまで関わった30名を超える人たちとともに合唱を披露しました。美しい音色と楽しい演出に、会場也大いに盛り上がりました。(記：丹羽)





県民参加型舞台
マカニーとエルド

会 期：2024年10月19日(土)
1部 14:00～15:10 2部 16:30～17:40
会 場：ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホール
出 演：愛 Wish プロジェクト
リカルド ガヤルドさん、イ グデ オカ アルタ スガラさん
大前光市さん、松久貴郎さん、栗原幸江さん、スカルサクラ
山本麻代さん、青木茂さん、ぎふ児童合唱団、HOPPERS
演 出：Mr.Takashima さん
来場者：1部 259名 / 2部 198名

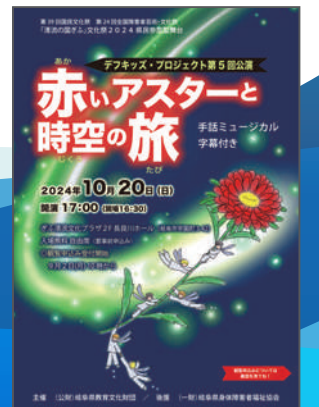
絵本「ぞうれっしゃがやってきた」の世界を老若男女、国籍、障がいのあるなしに関わらず集まったアーティストが、それぞれの方法で表現しました。出演者も観客も、そこにいた誰もがつながり、響き合い、最高の舞台となりました。(記：山田)



県民参加型舞台
赤いアスターと時空の旅

会 期：2024年10月20日(日)
17:00～18:30
会 場：ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホール
出 演：デフキッズ・プロジェクト
演 出：平井知加子さん
来場者：411名

「赤いアスター」の花言葉は「変化」です。時空をこえた先にはおなじみの物語の世界が広がり、その主人公たちに出会うことで新たな視点が生まれ、子どもたちが成長していくストーリーです。出演者の堂々といきいきとした演技に、字幕、音声などの演出も加わったことで誰もが楽しむことのできる、元気をもらえる舞台公演となりました。(記：高橋)



私のってん！

岐阜県にゆかりのある多彩な表現者たちの作品を、ぎふ清流文化プラザ 1 階の木製壁面に展示。各展示作品ごとに、自由に持ち帰ることのできる作家カードを設置しています。(記：中尾)



左：「理虫園Ⅱ(こんちゅうずかん)」 No.89
右：「蝶々たちのたわむれ」



翠翔
しょう

制作に集中すると、休日は長くて10時間描き続けます。2度同じ絵は描けません。画材にはこだわりがあり、北星色鉛筆、100円均一の10色油性ボールペン、修正ペン等を使用します。描き方は2つあり、自分がコピトの目線で生き物に乗って探し、見つけたら時間を止めて、その情景を描く方法と、実際に行った場所で一瞬暖かい風が吹いた時に映る景色と混ぜて描く方法です。頭の中は、本棚の世界！作品それぞれが一冊の本になっています。

文＝翠翔



「つとむくん」 No.090



甲村 文子
こうむら ふみこ
岐阜県立みどり荘

絵は中学生の頃から描いているとのこと。“作品展に出したい”、“漫画家になりたい”と夢を話しながら、キラキラした瞳のかわいらしい人や動物のイラストを次々に描いています。人と話すことも好きで、絵を描きながらおしゃべりしたり、その会話の内容を絵に盛り込んでみたりと、他者との関わりの中で作品を生み出しています。今回の展示も、たくさんの方に見てもらえることをとても喜んでおられます。

文＝施設職員



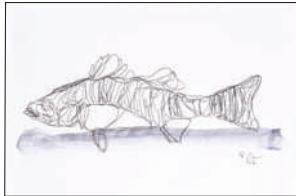
No.095



仁
じん
ハートピア谷汲の杜

色んなキャラクターや人に興味が有り、特徴を捉えることを得意としています。自ら考えた独自のキャラクターをつくり、空想の中でストーリーをつくっています。手指先がとても器用で、どんな小さなパーツも切り取り、のりやセロハンテープを使い立体的に仕上げていきます。画用紙を、通所事業所に欠かさず持ってきて、休みの合間に創作活動に取り組みます。平面の絵、紙を切り取った立体的なキャラクター、そして、紙粘土を使用したものまで、様々な表現の手法により、想像力豊かな世界を広げています。

文＝施設職員



「さかな」 No.096



小木曾 蒼
おぎそ あおい
ART FIELD

小木曾さんは人と話すことが好きです。仲間が制作しているところに行き、「何作っているの?」と話しかけ、自分も「やってみたいな」といって、仲間から刺激を受けて、新しいことに挑戦することも好きです。いろんな道具を使うことも好きです。作品が出来上がると、周囲のスタッフに「できたよ、見て!」と、とても嬉しそうに声をかけてくれます。

文＝ART FIELD 森 真紀



「かお」 No.091



清水 玲治
しみず れいじ
岐阜県立みどり荘

玲治さんは、人と関わること、人のお手伝いをするのがとても好きな方です。細かなところによく気がつき、いつも進んで手を貸してくれます。余暇時には、長洲剛や演歌などの音楽を聴いたり、職員と一緒に折り紙を折ったりすることが好きです。施設内の創作活動時間で、昨年から意欲的に描かれています。描くものはいつも決まって顔。画材を前にした時から手早いペースで仕上げていき、画用紙の両面いっぱい描くこともあります。今日の顔はどんな顔かな?と日々の変化が楽しみです。

文＝施設職員



「こころ。」 No.092



あん
ごちゃまぜアートの会

創作を始めたのは、1歳の頃。広告や裏紙に描くだけでは足りず、カレンダーの裏面、時にはマジックで壁や車に描くこともあった。今の画風になったのは、コロナ禍から。休校になり、自由に描く創作時間が増える中で、独自のスタイルを確立していった。絵を描くというよりは、好きな色で埋め尽くしたい衝動で、ペンを動かしていると言う方が正しいのかもしれない。作者にとって、絵を描いて完成ではなく、みんなに観てもらったり、褒められたりすると、初めて絵を描いたんだと実感するようだ。そのため、描くだけでなく、いろんな人に観てもらうことまでが、作者自身にとっての創作活動となっている。

文＝ごちゃまぜアートの会



「夢」 No.097



上松 祥也
うえまつ しょうや
オープンハウスCAN

小学校3年生から書道を始めました。普段は走り回ってばかりいますが、書道の先生に名前を呼ばれると書き始めます。楷書のお手本を見て、自分が見えるまま、感じたままに一気に迷いなく書き上げます。いろいろなサイズの和紙に書き、大きいもので120cm×70cmになります。墨の色も青墨などを使い、その文字に合うように工夫しています。筆圧があり独特な温かみがあります。どこか絵のようにも見えます。

文＝母



No.098



かじゅ
八百津町親子教室

恐竜を作る時はバランス感覚に気をつけています。アルミホイール一枚でしっぽ→足→体→頭の順番で作ります。他のキャラクターを作る時も足から順番に作ります。アルミホイールで作ったものは全部ぼくの兄弟です。作品を見てくれてありがとうございます。

文＝本人



No.093



きりやまさき
かがやきネットワーク2

きりやまさんは、他者との関わりの中で、いつも明るい笑顔を浮かべながら作品を生み出す才能豊かなアーティストです。絵を描くことや創作活動が大好きで、完成した作品を職員や利用者さんに贈り、みんなを幸せな気持ちにしています。どれも独自の世界観を持つ彼の作品は、その魅力で周囲を包み込みます。自分の作品が展示されることをとても喜んでおり、皆さんに見てもらえることを楽しみにしています。

文＝施設職員



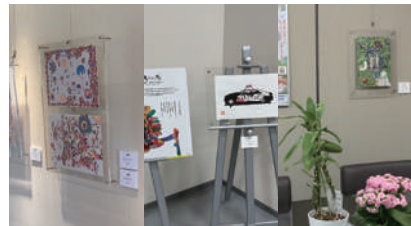
「道」 No.094



中村 碧
なかむら あお
ART FIELD

本を読む。音楽を聴く。作品を描く。創る。これまでも、これからも続いていく営み。ある日は没頭して、またある日はのんびりと。またある日は悩んで立ち止まり、何もしない日があって、何もできない日があって、そしてまた読んだり、聴いたり、描いたり、創ったり。時折、人と話す。そこからまた心やからだ動き出す。営みに同じものはなく、変容しながら、また明日の中村碧さんへと繋がっていく。

文＝ART FIELD 森 真紀



作家カード

作品の利用などにつなげることを目的に、来館者が持ち帰ったり、作家自身の宣伝に利用していただくための作家カード(はがきサイズ)です。

ここでも展示しています

ぎふ清流文化プラザの1階のtomoniカフェや、2階の岐阜運転者講習センター、岐阜県教育文化財団理事長室でも作品を展示しています。

「つなぎ ふくらむ作品展」 岐阜県庁

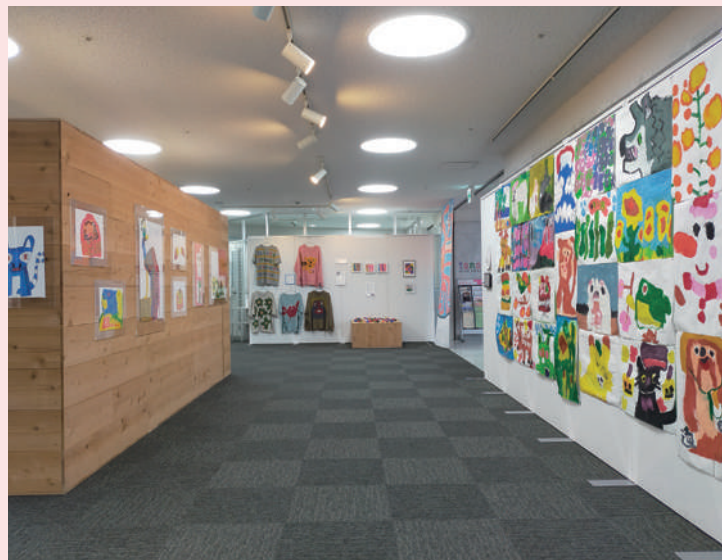
県障害福祉課と連携し、県内福祉施設等のマルシェ開催日に、約3ヶ月ごとに展示替えをして作品展示をしました。



良ちゃんと私展

TASC ぎふチャレンジ企画

公募した企画の中から本年度は1組の企画を採択。沢崎良太さん（良ちゃん）の日常や現在に至る創作過程を、過去から現在の作品の変遷を通して紹介。沢崎さんの制作方法を来場者が真似る体験コーナーや本人が作品づくりの実演をする機会を設けました。これまで出展者に関わってこられた方々の来場も多く、本人の現在を伝える機会ともなり、本人の制作意欲の高まりにも繋がりました。企画提案者自身も自信を持ち、この体験を基に他の方の支援者となって活躍の場を広げています。（記：二村）



会 期：2024 年 4 月 27 日（土）～ 7 月 15 日（月・祝） 9:00 ～ 17:00
 会 場：ぎふ清流文化プラザ1F 文化芸術県民ギャラリー
 出 展：沢崎良太さん 他
 企 画：土井さおりさん（wakuow Art）



岐阜県障がい者芸術教室 × tomoni ワークショップ NEST

ぼんやり撮影会



ワークショップ

先天的な視覚障がいがあり、限られた視力や視野で見えにくさを抱えていても、自分の「世界」を表現できることを伝えるため、「ロービジョンフォトギャラリープロジェクト」の活動を行っている小栗大輔さんからの写真展を行いたいという相談をきっかけに、（一財）岐阜県身体障害者福祉協会とワークショップの内容を協働し進めました。
 参加した晴眼者（視覚に障がいのない者）は、視野をあえて狭くした眼鏡を掛けて、ダンサーや演奏家をモデルに撮影。視覚に頼らず、光や音、香りやペアの誘導を頼りにロービジョン撮影の体験をしました。また、昔写真撮影が趣味だった参加者が、再び写真撮影に意欲を持つきっかけにもなりました。（記：二村）

ワークショップ

会 期：2024 年 7 月 20 日（土） 10:00 ～ 11:30
 会 場：ぎふ清流文化プラザ セミナー室等
 講 師：小栗大輔さん（ロービジョンフォトギャラリープロジェクト代表）
 出 演：古田大地さん（ピアニスト、パーカッショニスト、作編曲）
 坂田祥子さん（ダンサー）
 篠田志緒さん（ダンサー）
 山田純平さん（パーカッショニスト）
 協 力：渡邊道治さん、堀田陽介さん（ロービジョンフォトギャラリープロジェクトメンバー）
 寺島真希さん（tomoni アートサポーター）
 主 催：（一財）岐阜県身体障害者福祉協会
 参加者：10 名

作品展

会 期：2024 年 8 月 17 日（土）～ 9 月 16 日（月・祝） 9:00 ～ 17:00
 会 場：ぎふ清流文化プラザ1F 文化芸術県民ギャラリー



作品展

消防クリエイターと美術部の絵本づくり 一走れ！キーウィくん！森に虹がかかるまでー

高校生と障がい者との交流活動を「こたえのない学校」と呼び、令和5年度から8つのプロジェクトをスタート（P8 参照）。その1つ、大垣東高校美術部と消防クリエイターの伊藤龍一さんが参加した消防の絵本づくりが始まりました。そのプロジェクトを令和6年度から「TASC ぎふコラボ展」で引き継ぎ、消防クリエイターとして長年活動している伊藤さんの消防への思いをきっかけとして、「誰一人取り残されない」をキーワードにした絵本が出来上がり、読み聞かせや寄贈も行いました。

直接会う機会が一度しかなかったこともあり、互いの思いのズレや行き違いが生じながらも、「障がい」について深く考え、どう表現し伝えるか高校生なりの答えを形にすることができました。（記：井川）



会 期：2025 年 1 月 11 日（土）～ 2 月 24 日（月・振） 9:00 ～ 17:00

会 場：ぎふ清流文化プラザ 1F 文化芸術県民ギャラリー

参加者：ストーリー・イラスト：大垣東高校美術部

原案・アドバイザー：伊藤龍一さん（消防クリエイター）

絵本監修：金田典子さん（大垣東高校美術部顧問）



絵本の読み聞かせ



岐阜市立図書館への絵本の寄贈

tomoni あたらしいものづくり [Make With 2024]

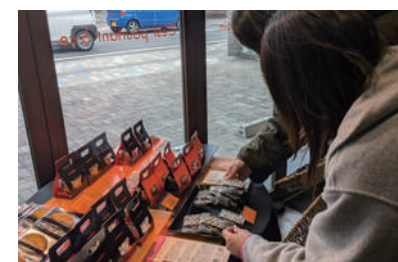
県内有名パティシエと多様な作家をアートでつなぐ
持続可能なあらたなもののづくり
「サブレショコラ」の製作と販売によるアート活用事業



多様な作家のアート作品を活用し、Well-being な暮らしとビジネスにつながるものづくりをめざす本事業では、本年も岐阜県在住のパティシエ・滝本真シェフとのコラボにより、昨年製作した「トモニショコラ」（ポンポンショコラ）に続き、本年は第2弾として作家の絵柄をよりアピールできる「サブレショコラ」を完成させました。

今回も、ジェイアール名古屋タカシマヤでの日本最大級のバレンタインフェアをはじめ、県産品ショップ「THE GIFTS SHOP」、そして滝本シェフのパティスリー「TAKIMOTO」（各務原市）での販売が実現しました。

さらに今年度は「サブレショコラ」専用のギフトパッケージとして県内の障がい者就労支援オフィスにて、作家の作品を活用した紙袋の製作も行いました。ショコラは、岐阜のショップでは発売から数日で完売し、紙袋も全国の2000人近い方々の手に渡るなど大好評をいただきました。（記：古田）



就労支援オフィス（3カ所）での紙袋製作作業



作家作品を使用した手作りの紙袋



作家と古田肇前知事・滝本真シェフ THE GIFTS SHOPで

いろいろなつながり

tomoni カフェ・tomoni つながる market

ぎふ清流文化プラザ 1F にある「tomoni カフェ」(社会福祉法人舟伏)と連携し、毎月第3水曜日と木曜日にマーケットを開催。県内福祉事業所で作られた製品やアートを活用した商品をPR・販売。個人作家の方やマーケットでの販売参加が困難な方には、カフェ店内の販売棚やガチャガチャ等を使用して3か月間の期間限定販売を行っています。(記：井川)



カフェ内出店：チーム宝箱、もこもこハウス、有賀宣美さん、小堀慶大さん



「可児市文化創造センター」いろいろなみんなのアート展

(公財) 可児市文化芸術振興財団との連携として、中濃・東濃圏域にゆかりのある方の作品を展示しました。

①松居 宥祐 作品展示

会 期：2024 年 6 月 15 日(土) ～ 11 月 1 日(金)

②拓郎 作品展示

会 期：2024 年 11 月 3 日(日) ～ 2025 年 3 月 16 日(日)

エイブル・アート展

みんなのオープンアトリエ

エイブル・アート展の会期中に、誰もが自由に参加して創作できるアトリエをオープンしました。皆さん、想像力を広げて、楽しく好きな絵を描いて参加してくださいました。

会 期：2024 年 11 月 2 日(土) 13:30～15:00

講 師：ごちゃまぜアートの会

参加者：47 名

「OKB 大垣共立銀行」



トモニアートプロジェクト

OKB大垣共立銀行と地域企業と協力して、障がいのある作家の作品を活用した製品を商品化して販売するプロジェクトです。TASC ぎふでは、作家紹介や作品の適正利用のアドバイスなどをしました。

「ぎふ木遊館」



TASC ぎふ × ぎふ木遊館

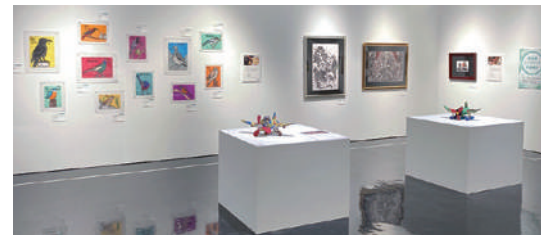
オブジェ「三叉」をみんなで飾ろう

ぎふ木遊館のワークショップで作成した三叉を、「いろいろなみんなの展覧会」で庭園に設置しました。

会 期：2024 年 9 月 23 日(木・祝)

10:30 ～ 11:30、13:00 ～ 14:30

「石川県」



いしかわ障害者アート展

岐阜県が石川県と締結した文化交流協定にもとづき、岐阜県の障がい者によるアート作品を石川県立歴史博物館で展示しました。

会 期：2025 年 3 月 7 日(金)～3 月 16 日(日)

9:00～17:00

会 場：石川県立歴史博物館(金沢市)

出 展：青山桂己さん、武富龍太郎さん、森義雄さん

「株式会社十六フィナンシャルグループ」

つなぐアート展

十六銀行各支店での巡回展示を終え、最も作者の心に響いた感想を送った鑑賞者へ、作品の贈呈式を行いました。



“つなぐ” 伝統工芸アート展

アート作品を利用した伝統工芸品(行灯、提灯、番傘、水うちわ)を作成し、「いろいろなみんなの展覧会」で展示したほか、県内の十六銀行各支店での巡回展示も行いました。

出 展：有賀宣美さん、井上千里さん、江川菜々美さん

「建築関係」



このまちの展覧会

TASC ぎふから作家情報を提供し、各企業が建築現場に大きくプリントした作品を展示しました。今年度は県内作家5名の5作品を紹介しました。

出 展：伊藤淳司さん、オオボラヨシエさん、
升山和明さん、かていよしおさん、森田尚吾さん

「全国支援センター」



第2回全国連絡会議

ステージ鑑賞、交流会、シンポジウム、分科会等、全国の支援センター、広域センター、行政の担当課のみなさんが集まり、情報共有や意見交換、研修を行いました。

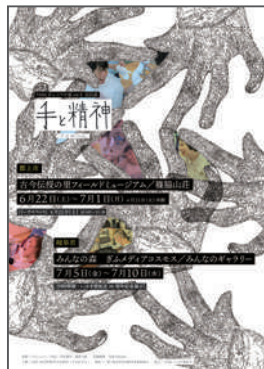
会 期：2024 年 10 月 24 日(木) 14:00～18:00

10 月 25 日(金) 13:30～16:30

会 場：ぎふ清流文化プラザ、長良川国際会議場

TASC ぎふコラボ展 vol.9 巡回展
手と精神

昨年度、東京藝術大学で教鞭をとる湯澤大樹さんに協力を求め、障がいの有無に限らず、大人から子どもまで、年齢・性別・国籍など関係なく、1000人以上の方が参加した約半年間のプロジェクトを経て、ぎふ清流文化プラザにて「手」を題材にした作品群を展示しました。今年度は県内2か所で再度展示するとともに、郡上市ではトークイベントも開催しました。「手と精神」にまつわる「ART」や「思想」をキーワードに「生きること」について、3人の方々のトークを聞いたあと作品を再度見ると、また違った見え方がありました。（記：井川）



巡回展 ①

会 期：2024 年 6 月 22 日（土）～ 7 月 1 日（月） 9:00 ～ 17:00

トークイベント 6 月 22 日（土） 10:00 ～ 11:30

会 場：古今伝授の里フィールドミュージアム 篠脇山荘（郡上市）

〔トークイベント〕

出 演：若宮多門さん（長滝白山神社宮司）

土屋明之さん（岐阜県芸術文化会議会長・TASC ぎふ美術アドバイザー）

湯澤大樹さん（東京藝術大学デザイン科講師・「手と精神」監修）

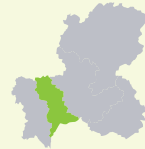


巡回展 ②

会 期：2024 年 7 月 5 日（金）～ 7 月 10 日（水） 10:00 ～ 18:00

※同時開催：いぶき福祉会 30 周年記念展示

会 場：ぎふメディアコスモス みんなのギャラリー（岐阜市）

「いろんなみんなの展覧会 大地（にわ）に、つどう。」との連動企画
三叉の下でゆる～いフェス

「いろんなみんなの展覧会 大地（にわ）に、つどう。」との連動企画として、三叉をつくるワークショップを実施。幼児から中学生くらいの子連れで家族参加者に、三本で支え合いながら自立する三叉づくりや、歌とギター演奏、紙芝居といったパフォーマンスを楽しんでいただきました。（記：二村）

三叉をつくろう！

協 力：（庭師）熊谷昌樹さん、所孝一さん、藤井海人さん

ゆる～く LIVE パフォーマンス

出 演：夢工房 JIN、チャーリーホッパーさん

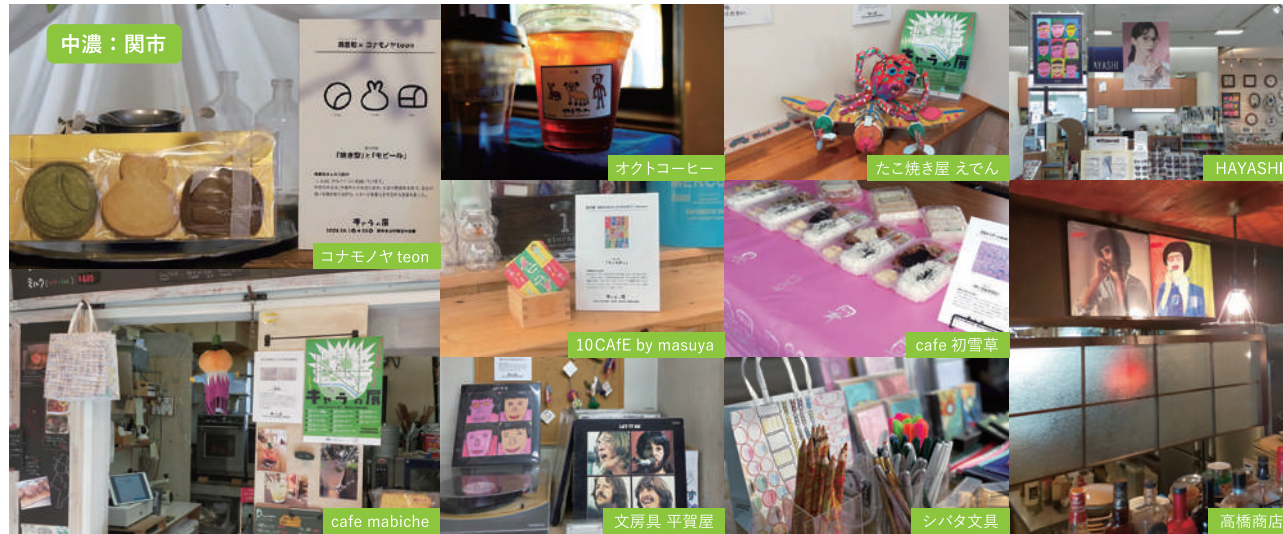
会 期：2024 年 9 月 28 日（土） 10:00 ～ 14:00

会 場：オアシスパーク ひだまりホール（各務原市）

主 催：木曽三川公園管理センター、（株）オアシスパーク、TASC ぎふ



渾沌の中の調和Ⅳ キャラ の 展



関市および周辺地域内の13店舗を会場とした展覧会。「キャラ の 展」と題して、キャラクターやキャラクターらしき作品から、各店舗のオーナーが展示作品を選びました。お店に合わせた作品の見せ方で来店されたお客様に作品とお店での時間を楽しんでもいただきました。また、オーナーさんには出来る限り、事前に作者に会っていただき、顔の見える関わりをしていただきました。（記：武藤）

会 期：2024 年 10 月 1 日（火）～ 25 日（金）

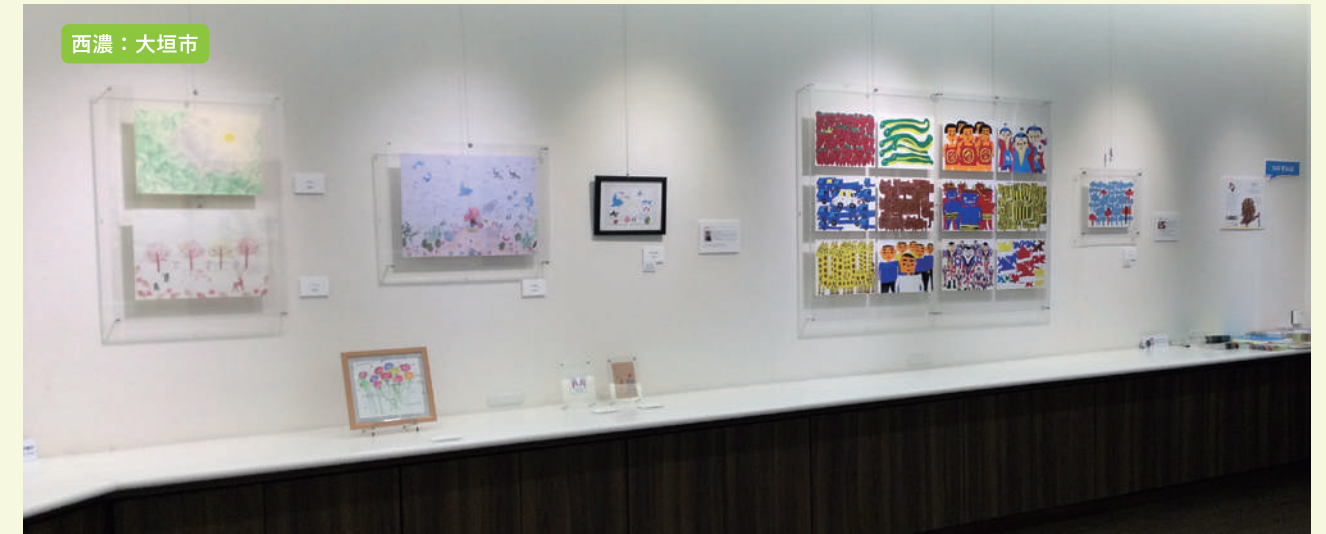
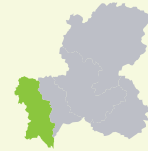
会 場：オクトコーヒー、cafe mabiche、コナモノヤ teon、SHINE BAGEL、高橋商店、たご焼き屋 えでん、10CAfE by masuya、cafe 初雪草、HAYASHI、ハレルヤ 憩いのカフェるや、文房具 平賀屋、Milk&Puzzle、シバタ文具

出 展：木田和裕さん、かとうたかゆきさん、森豊和さん、矢橋哲夫さん、カッチンさん、陶技学園、ヨシオモリさん、高木瞳さん、河村りつ子さん、寺町航さん、Luna さん

主 催：NuNo-SEKI、TASC ぎふ



多様な有りよう展 2024



大垣共立銀行が主導する「トモニアートプロジェクト」の内、現金封筒への掲載候補となった作家の作品やOKB関連作家さんの作品を展示しました。このギャラリーでの展覧会は今回で5回目となります。最寄り駅である大垣駅はJR東海、樽見鉄道、養老鉄道が接続して立地に恵まれており、ギャラリーはにぎわいました。（記：井川）

会 期：2025 年 1 月 17 日（金）～ 2 月 18 日（火） 10:00 ～ 17:00

会 場：OKBギャラリーおおがき（大垣市）

出 展：小堀慶大さん、山本豊和さん、浅野雅子さん、竹橋憲秀さん
wakaba さん、服部綾香さん、難波岳雄さん

主 催：OKB大垣共立銀行、TASC ぎふ

協 力：（一財）岐阜県身体障害者福祉協会



HIDA まちなかアート



高山市内の5か所において、展覧会を実施。展示作品は会場となる各店舗店主とも相談しながら、作品選定を行いました。地域の方も利用される場を会場としたことで、多くの人の目にふれる機会となりました。まちスポ飛騨高山において、展示作家を交えたトークイベントを開催。普段、交流機会のない作家同士の交流の場もつくることができました。また、出展作家の曾良貞義さんが出演している映画「日日芸術」を高山市図書館煥章館でバリアフリー字幕付き上映をしました。（記：武藤）

会 期：2025年1月21日（火）～2月13日（木）

会 場：高山市図書館煥章館、ピースランド、

HIDA 高山店 森と暮らしの編集室、81cafe、まちスポ飛騨高山

出 展：臼井紀和さん、ギンさん、さるさん、曾良貞義さん、タクミさん、Tシャツさん、tomohiroさん、原田正則さん、MAKOTOさん、竜さん

主 催：HIDAともにフェス × 実行委員会、TASC ぎふ

協 力：認定 NPO 法人まちづくりスポット飛騨高山

① 映画「日日芸術」上映会

会 期：2025年1月19日（日） 13:30～16:30

会 場：高山市図書館煥章館 生涯学習ホール

② アーティストトーク

会 期：2025年2月8日（土） 14:00～16:00

会 場：まちスポ飛騨高山



映画「日日芸術」上映会

アーティストトーク

障がい者実演芸術アウトリーチコンサート
にじいろワクワクコンサート

東濃：恵那市

岐阜県立恵那特別支援学校



中濃：美濃加茂市

岐阜県立可茂特別支援学校

岐阜県内特別支援学校の児童・生徒に向けて、「にじいろワクワクコンサート」を開催しました。岐阜県芸術文化会議所所属の声楽歌手、フルート奏者、ピアノ奏者、打楽器奏者の4名による歌や楽器演奏が披露され、児童・生徒は声の響きを体で感じたり、様々な楽器の音色に耳を澄ませたりしました。アンケートでは「フルートの音が素敵でした。」「スマホで聴くよりもやっぱり生で聴く方が良い。」という感想をいただき、音楽にふれる喜びを感じられるコンサートになりました。（記：山田）



① 岐阜県立恵那特別支援学校

会 期：2024年6月21日（金）13:30～14:45

会 場：岐阜県立恵那特別支援学校 体育館

出 演：家田阿美さん（歌）

河田恭子さん（フルート）

松尾志穂子さん（マリンバ & パーカッション）

葭田美香さん（ピアノ）

来場者：児童・生徒・職員 約250名

② 岐阜県立可茂特別支援学校

会 期：2024年7月16日（火）9:30～11:50

会 場：岐阜県立可茂特別支援学校 体育館

出 演：家田阿美さん（歌）

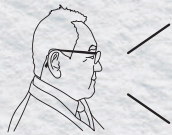
河田恭子さん（フルート）

松尾志穂子さん（マリンバ & パーカッション）

葭田美香さん（ピアノ）

来場者：児童・生徒・職員 約500名





TASC ぎふスタッフが、
今年度の担当事業をふりかえりました。

あんなこと、こんなこと、ふりかえり

にわ

今年度は「清流の国ぎふ」文化祭2024の一環として、TASC ぎふでも多くの舞台関連事業を開催しました。「まじわるステージ」と題した4つの舞台公演では、どの舞台でも「ろう劇団」と「高校演劇部」、音楽ユニット「ゆめぼっけ」と世界で活躍する音楽家や俳優など、新たなまじわりと挑戦がありました。来場された方の感想はとても前向きなもののばかりで、仲間と共にひたむきに舞台づくりに向かう姿勢、そして何よりもそれを純粋に体いっぱい楽しんでる姿が、来場された方の心を動かす力になったのだと思います。昨年度、情報保障に特に注力して開催した「森の夏祭り」コンサートから引き続き、今年度も誰もが楽しめる舞台について考え、さまざまなサポートを実践してきました。国民文化祭を機に合理的配慮について考える機会も増えました。とはいえ、岐阜県全体で見れば、まだまだ当事者の抱える舞台芸術への心理的ハードルは高いように感じます。舞台の創り手、観客、運営スタッフそれぞれが、それぞれの立場でできることを考え続け、「舞台って楽しい」「自分も参加できた」という経験を誰もが当たり前に行える環境づくりをしていくことがこれからの目標だと思っています。

やまだ

「清流の国ぎふ」文化祭2024と、清流の国ぎふ総文2024、2つの文化祭が開催され、今年度の岐阜県はまさに「文化イヤー」となりました。それぞれの舞台や展覧会などにご来場いただいた皆様におかれましては、改めて感謝申し上げます。担当者として事業に関わり、個人的にも多くの学び、反省、思い出ができましたが、その中で印象に残っていることがあります。「不思議な再会」公演（P9 参照）の際の出来事です。出演者である岐阜ろう劇団



いぶき、長良高等学校演劇部、演出家の野崎美子さん、音楽担当の古田大地さんが公演後、交流会を行い、今回の舞台に参加することになったそれぞれの経緯や、共演して感じたこと等の思いを自由に語り合いました。この交流会をみて、「不思議な再会」公演は大きな意義があったと改めて感じましたが、舞台の準備・合同稽古などの様子を思い返すと、出演者の皆さんがコミュニケーションをとり、互いを感じ合い、一つのものを作り上げ、最後に思いを共有する。そのプロセス全てが「アートで、まじわる」瞬間でした。公演を観た人も、出演した人も、全ての人が何かを感じる、そんな場に居合わせたことが、幸せな経験となりました。

ふたむら

「いろいろなみんなの展覧会」は、今回の8回目を集大成とするとして始めました。本当なら、今まで関わってきた200人以上の方を全員紹介したかったんですが、限られたスペースの都合もあったので、色々な表現の仕方とか、作品なのか、作品ではないのかもしれないけれども面白いというものまで含めて幅広い表現をいろんな人に観てもらいたいと思い、その視点でピックアップさせてもらいました。今回の企画展「つどう あらわれ」の展示作業で、作者の意図と展示の仕方がマッチしていないかもしれないという意見が展示スタッフの間で出ました。例えば、有賀さんの木の立体作品についても、最初は組み立てオブジェ的に展示をしたんですが、途中で1個1個の作品をちゃんと見せるために平板なカタチで展示をしました。後の反省会では、そういう展示にするのであれば、台座を使って展示すべきだったのではないかなとか。展示スタッフもそれぞれ想いや意見を持っていて、議論が生まれてきました。展覧会の回を重ねていったことで、そうした変化が出てきました。いろいろな人が関わってくたさることで、考え方の幅も広がってきたのかもしれない。



ただ、逆のことで言うと、展示の仕方で意味を持たせ過ぎてしまうと、そのことが、作品作りに影響を与えてしまうかもしれないので、意味を持たせ過ぎないというところには気をつけてきました。有賀さんに、スタッフの中で意見が出て、最終的に展示の仕方が決まったんだということをお伝えしたら、「その場面も見なかった」と言われました。作者が作品を作るんだけど、展覧会はみんなで作っているんだなといった実感があり、印象に残っています。回を重ねたことでの変化で言うと、最初の頃はお客さんも「障がい者が、こんな素敵な作品を作って！」といった感想が多かったけれど、最近は、作品そのものに面白さを感じてくださっていることが増えたということを肌感で感じます。お客さんとともに、私たちも成長してきているような気がします。

ひらの

今年度は、ハンドパンなどを使った音楽ワークショップを開催しました。重度の障がいをお持ちの方にご参加いただき、音楽を感じていただくことと企画して取り組みました。親御さんが楽器を耳元や手に当てることで音の「響き」、「振動」を感じていただきました。また、会場参加の定員を少なく設定していたので、特別支援学校や福祉施設とはオンラインで繋いで団体参加もしていただきました。今までのオープンアトリエ（ワークショップ）は、美術系のものが多かったのですが、今回は音楽ということで、誰でも簡単に参加できるという要素がよかったと感じました。音楽は、触れるだけで音がでて、触れるだけで皆と合わせで楽しむことができるところは改めて素敵なことだと思いました。参加者も最初は緊張で、顔がこわばっていて、何をやるんだろう？という雰囲気でしたが、音を奏でていくにつれてだんだん楽しくなってきた感じが伝わってきました。会場には、色々な楽器が準備されていたので参加者がそれぞれ自由に楽器を持って演奏し初対面の方とも交流している感じがとてもよかったです。最後は参加者同士でセッションも行われ、一体感を得ることができ、とても感慨深かったです。オンラインで参加された方からは、「すごくよかった。会場で音を感じたかった。」というお声もあったので、希望される学校や



施設など現地で開催することも検討したいと思っています。

いかわ

アウトリーチ「手と精神」では、郡上市と岐阜市で開催しました。トークショーも開催したのですが、作家の話の聞いたり鑑賞会をすることで、物の見方が変わるってことが、しみじみよく分かりました。「Make With 2024」では、昨年に引き続き、TAKIMOTO（各務原市）とコラボをしました。昨年はボンボンショコラでしたが、今回はサブレショコラで作品も大きく見ていただくことができました。出来上がったお菓子は、ジェイアール名古屋タカシマヤと岐阜駅の「THE GIFTS SHOP」で販売し、売り場で商品を選ばれているお客様の笑顔に触れることもできたことが良かったです。商品を入れる紙袋も作品を使用した手作りの手揚げの紙袋を作りました。紙袋の製作は、岐阜県内の就労支援オフィスにお願いしました。作品が印刷された紙袋を就労支援オフィスにお持ちしたときに、利用者の皆さんから笑顔が見られました。紙袋を成形するのは、多少難しい部分もあるんですが、普段やっていないことにチャレンジすることも影響したのかもしれない。数量がとても多かったのも、モチベーションが維持しづらくなった時もあったようです。そんな時にTAKIMOTOのお菓子を差し入れしたんですが、それで、さらに皆さんのやる気が出たようでした。関わった方々の顔が見えることで、こちらも感謝の気持ちが強くなりました。コラボ展では、伊藤龍一さんと大垣東高校美術部が絵本を共作する過程を展示しました。絵本の制作過程には色々としず曲折があったようですが、伊藤さんが展示を初めて見られた時に表情がぱあっと明るくなられたのも印象に残っています。やはり、関わった人の喜びの表情を間近でみる、現場を知ることの大切さを実感しました。

なかお

「私のいってん！」や「つなぎふくらむ作品展」、可児市 ala での展示、ぎふ清流文化プラザでの「マルシェ」などを担当して、直接、作家さんや



作り手さんと関わる人が多いです。マルシェは、外部の方と繋がる場としても大事なかなと思います。以前よりも施設同士で繋がったり、お互いに同じような食べ物を作っているけれど、買いあってみて参考にしたりとか、自然と交流が生まれています。tomoni カフェでも委託販売をさせていただいていますが、遠方でなかなか来られない方や、店頭に立って販売することが難しい方たちの商品を販売したりもしています。私はもともと繋ぎ手となるポジションが好きで、自分が元々販売の仕事をしていたのも、物を生み出せないけれど、物を作る人と見たり買ったりする人の間にいることが好きなんです。TASCぎふも繋ぎ手となる仕事なので、充実した日々を過ごしています。TASCぎふは、「障がいのあるなしに関わらず～」と言ったりする中で、TASCぎふのようなところがない社会になることがいいとは思っているんですが、ないと困る方もいるというか。障がいについて伝えていきたい方もみえたりして、障がいを抱えている方の中でも、作品を通じて障がいのことを言えて、より自分の気持ちが前向きになったという話を聞いたりすると、TASC ぎふの存在と関係あるのかは分かりませんが、何がいいのだろうと、色々と考えて揺れうごいた一年でした。

たかはし

「赤いアスターと時空の旅」の公演を担当しました。今まで、聴覚障がい者と接することがほとんどなかったんですが、実際にやり取りする中で、普段当たり前だと思っている電話ができなかったりだとか。始めはなかなか慣れなくて、後から思えば、メールなどで確認すれば良かったことも遠慮からなのか、確認が疎かになって行き違いが出てしまったこともあり。難しさは感じましたが、平井さん（デフキッズ・プロジェクト代表）がすごく優しくしてくださったこともあり、だんだん慣れてはきました。舞台公演に関わらせていただいている中で、デフキッズプロジェクトに関わってみる方たちの結束力が強いというのが印象強かったです。舞台作りの経過も見せていただく中で、練習にも何度か立ち合わせていただいたんですが、厳しい練習を積んできて



の本番を迎える姿を見て感慨深かったです。最近になって手話を始めたんですけど、手話の中にも例えば大きさとか、ジャスチャーで表すようなものもあったりすることを初めて知ったりしました。始めたきっかけは知り合いの方が勧めてくださったことでしたが、そんなタイミングで TASC ぎふに来るようになったんです。手話、難しいけど面白いですね。まだまだ、流暢に話せるようになるには先が長いですが。

むとう

昨年度の「こたえのない学校」と題した高校生と障がい者との8組の交流事業のドキュメントを、今年度、文化祭事業の「まじわる新聞・まじわるラジオ」として、新聞、ラジオのメディアで伝えるということに取り組みました。「答えがなくてもいい」「答えが出なくてもいい」との趣旨で取り組んだ事業でした。そのプロジェクト8組の参加者のうち、2組に「まじわるラジオ」に出演いただき、話を伺いました。どちらも普段、接点を持たなかった者同士の交流に面白さや発見を感じてくれたようでした。アウトリーチ事業の「渾沌の中の調和Ⅳ」や「HIDA まちなかアート」でも、結論ありきというよりは、考えながら進めているところがありました。もちろん、問題もありましたが、都度、それぞれ関わる人が知恵やアイデアを出し合って、「こたえのない」ことに向き合う感じがありました。どちらも、地域の店舗などを会場とした展示企画で、作者や店主さんとも話しあいながら展示作品を選び、作り上げました。また、「渾沌の中の調和Ⅳ」では、「人に事を合わせる」ことを考えるパネルディスカッション（P8 参照）。「HIDA まちなかアート」（P25 参照）では、映画「日日芸術」の上映会、作家とのクロストークなど、展覧会に加えた企画も開催し、それぞれ趣の異なるかたちの顔が見える取り組みが、各地域の主催者の発案から生まれました。具体的に誰かの顔を浮かべて取り組むことで、多くの人に伝えることができる気がします。反省するところも多々ありましたが、そんなことを強く感じた一年でした。



第 48 回全国高等学校総合文化祭
清流の国ぎふ総文 2024 特別支援学校部門

ステージ発表や作品展示・作業製品販売など、特別支援学校の児童・生徒が、日頃の活動の成果を発表しました。



会 期：作品展示 2024年7月31日(水)～8月2日(金) 9:00～17:00
作業製品販売・ステージ発表 2024年8月1日(木)・8月2日(金) 14:00～16:00

会 場：ぎふ清流文化プラザ エントランスホール、文化芸術県民ギャラリー、長良川ホール、ホワイエ
ステージ発表出演者：県内特別支援学校 14 校

出展・展示物等：岐阜県内特別支援学校の児童・生徒が制作した作品（全 23 校、各校 2 点）
全国特別支援学校文化祭 優秀賞受賞作品（14 点）
かがわ総文祭2025 招待作品（2 点）

来場者：7 月 31 日(水) 15 名／8 月 1 日(木) 350 名／8 月 2 日(金) 300 名

協力事業



TASC んふ × んふ木遊館

「みんなのもくもく作品展」

岐阜県内の特別支援学校で制作された「木」を
主な材料とした作品や製品を展示しました。

会 期：2024 年 7 月 30 日(火)～8 月 5 日(月)
会 場：んふ木遊館

出 展：岐阜県内特別支援学校 児童・生徒 7 校
来場者：1211 名



岐阜県障害福祉課、(一財)岐阜県身体障害者福祉協会

「障がい者週間作品展」

会 期：2024 年 12 月 3 日(火)～12 月 22 日(日) 9:00～17:00
会 場：んふ清流文化プラザ 1F 文化芸術県民ギャラリー

(一財)岐阜県身体障害者福祉協会

「ふれあいアートステーション・んふ応募作品展」

会 期：2025 年 3 月 18 日(火)～3 月 28 日(金) 9:00～17:00
会 場：んふ清流文化プラザ 1F 文化芸術県民ギャラリー

岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASC んふ〕 協力委員会・アドバイザー (敬称略)

〔協力委員〕

岐阜県障がい者芸術文化支援センターの事業計画や進捗状況を確認して事業運営に必要な意見をいただくため、
様々な分野において活躍する県内の有識者に、協力委員を務めていただいています。

吉田健太郎 (一財)岐阜県身体障害者福祉協会 常務理事兼事務局長
浅井長可 (一社)岐阜県知的障害者支援協会 事務局長
中村剛 (特非)岐阜県精神保健福祉会連合会 顧問
長谷川典彦 (特非)岐阜県難病団体連絡協議会 理事長
兒玉哲也 岐阜県特別支援学校長会 会長(岐阜県立岐阜盲学校 校長)
日比野克彦 岐阜県美術館 館長
石崎泰之 岐阜県現代陶芸美術館 館長
柳原幸一 (一社)岐阜県経済同友会 筆頭代表幹事
吉田和弘 国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学 学長
若井敦子 岐阜県議会議員

〔TASC んふアドバイザー〕

障がい者の芸術文化活動について支援を行う際に、必要に応じて美術や舞台等の専門家から
アドバイザーとして助言をいただいています。

小島紀夫 舞台芸術アドバイザー
古田菜穂子 アート利活用アドバイザー
土屋明之 美術アドバイザー
曾我部弘樹 障がい者 tomoni トータルアドバイザー
松井義孝 リーガルアドバイザー

企画・編集・発行

(公財)岐阜県教育文化財団
岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASC んふ〕
〒502-0841 岐阜県岐阜市学園町 3-42 んふ清流文化プラザ 1F
TEL 058-233-5377 FAX 058-233-5811
E-mail tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp

発行責任者：田中誠司(岐阜県障がい者芸術文化支援センター長)
写 真：伊藤健次郎、岐阜新聞社、スタジオベガソ、松原一博
デザイン：boum
表 紙 画：「春の訪れ」山田真己



フォローしてね Please follow me

<https://www.tascgifu.com/>

TASC んふ 検索

